

女性の働きやすい職場を視察して

お母さん読んで!

～女性社員を中心戦力としている会社～

社会や経済の変化のなかで、日本の多くの女性たちが社会に進出し活躍しているのはごく当たり前の時代になった。人口減少社会を迎え、学校や官庁や民間企業などあらゆる職場で女性の能力を必要とする時代がやってきたのである。そんな折、先日、女性の皆さんが活躍している地元の先進企業を視察した。

その会社は、当市中洲に本社工場をおく精密機器メーカーの有限会社高橋製作所である。創業者で現会長の高橋昭夫氏の案内で、同社主力製品の圧力計内機や小型感震器、温度計内機などの組立自動化ラインを見学した。特筆すべきは設備のオペレーターから品質管理、出荷管理にいたる製造運営のすべてを、女性社員で行われていたことである。

高橋会長にお聞きすると、創業当初から女性を中心戦力として活用してきたとのこと。昨今の男女共同参画社会などという話してではなく、中小零細企業が優秀な大卒の男子を採用しようと思っても無理という前提があった。

氏がイメージ的にとらえる男女間の能力差は、責任感・社交性・協調性は同等、思考力・積極性は女性が勝り、総合的には女性の方が優れているという。その具体例として結婚しての家庭生活に見ることができる。女性は結婚して子どもが生まれると子育てに夢中になる。「熱はないか、オムツは汚れていないか、ミルクを飲ませないと…」この愛は中小・零細の経営者の“モノづくり”に対する感覚と共通するものがある。残念ながら男性にはこのような機会は生涯めぐってこないとユニークな持論を熱く語った。

あらためて職場をくまなく見渡すと、整然と整理が行き届き、床にはゴミ一つない。女性の皆さんが手際よくスピーディーに仕事をしている。誰から指示されるまでもなく、自ら取り組んでいる明るい姿に感動した。

同社は創業以来、赤字決算に至っていないという。経営面にも女性の戦力が反映されているのだと思った。



編集後記

この情報紙を編集しているとき、昨年上映した「ALWAYS 三丁目の夕日」の続編が全国一斉に封切りされた。前編同様久々の感動作品として評判になっている。

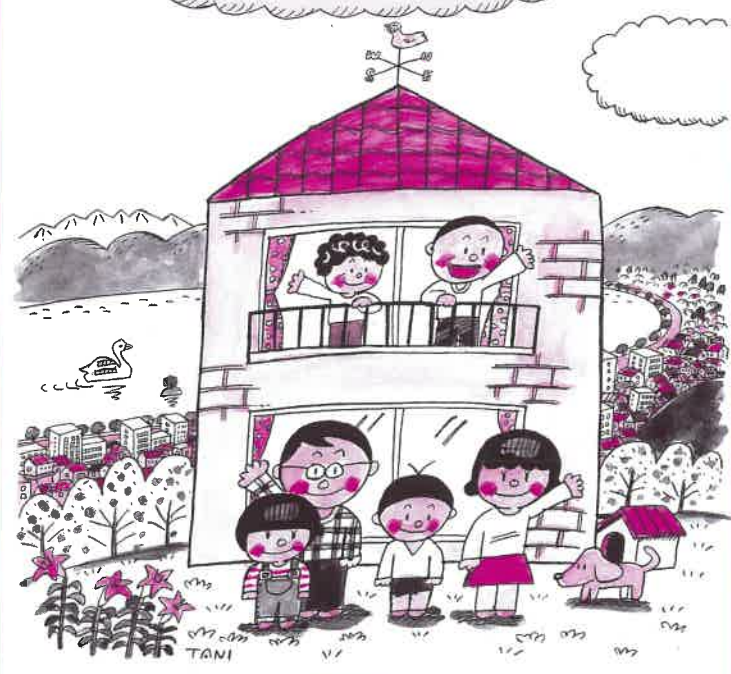
3月1日には12月の文化講演会の講師、松井久子さん（監督）による「折り梅」を駅前市民会館で上映する。ブラウン管と違い劇場での大画面は迫力がある。お誘いあわせて是非おいでください。それについても諏訪市から映画館がすべて消えてしまったのは淋しい。

ご意見お問い合わせは — ◆ 諏訪市まちづくり・男女共同参画推進課 TEL 52-4141 内線289
E-mail machi-danjo@city.suwa.nagano.jp

□情報紙「いきいきパートナー」は古紙配給率100%の紙を使用しています。



あんな子・こんな子
いていいよね



●市内小学5年生に
冊子を配布しました●

私たち「男女共同参画市民協議会」に課せられた課題は多岐にわたっていますが、これはその取り組みの中のひとつで、「男女共同参画」の基本理念を子どもたちに理解してもらうための一助としての「あんな子・こんな子 いていいよね」の冊子を作成したものです。

この冊子は、つい先ごろ教育委員会を通じて諏訪市内の小学5年生全員に配布され、各学校で活用していただくことになりました。

また、この冊子の作成にあたっては富士見町の男女共同参画推進委員会の皆さんに多大なご協力をいただきましたことを付記し、御礼申し上げます。 会長 伊東道雄



こんなに進んだよ 区政への女性進出!

今年度の役員より

中町区長 岸 昌代さん

たまたま亡き夫が引いたくじ引きで、平成二十年の区長を務めさせて頂くわけですが、強力な助っ人、これまた女性ですが、二人で力を合わせ、高齢化の進む中、安全で協力し合い、仲良く暮らせるお手伝いができればと思っております。女性の視点を区政に…とと言われるとちょっと困ります。だって結構男っぽいので、私…。

中町区会計 百瀬博子さん

中町で生まれて育ち、今まで町の人たちに、お世話になって暮らしてきた感謝の気持ちと、小さな町だから、一人一人が協力していかなければ成り立っていかないという思いで、役を引き受けました。住民の“和”を大切に、つとめていきたいと思っております。

末広町2区長代理 加藤秀子さん

この度、末広町2区長代理を推挙されましたが、輝かしい歴史を刻まれた区だけに、私に務まるかどうか不安を抱いて後込みしていたところ、現区長が女性を起用したいとの熱意ある言葉にほだされ、清水の舞台から飛び降りる気持ちでお引き受けすることにしました。

女性も男性も共に個性や能力を発揮できる男女共同参画社会を進めていかななくてはならない時代だけに、地域に於ける先駆者として精一杯女性の力を高め、区政及び区発展のために尽力して行こうと決意を新たにいたしました。



区長を終えて

18年度みどり区長 沖野富美子さん

18年度、みどり区の区長を引き受けることになり、当初は気の重い毎日でした。しかし、引き受けたからには役目を果たさなければなりません。前年度は副区長でしたので、前年度を参考にさせて頂きました。女性区長だからといって役が軽くなることはありません。私自身はあまり女性ということ意識した事はありませんし、自分で出来ることはできるだけやりました。しかし、周りの方々には、ずいぶん支援をしていただいたように思います。だからできたのだと思います。

19年度湖柳町区長 守屋輝代さん

平成18年は副区長、平成19年は区長と2年間は忙しかつたですが、とても有意義な日々でした。周りの人達に助けられ、女性の視点で判断すればいいからと言われてました。区政は、日常生活に結びついています。区民として、男性と同様に女性もその責任を果すことが大事だと思っております。

「日本女性会議2007広島」に参加して

～一人ひとり響きあっていまそして未来へ～

10月19日、20日と広島で日本女性会議が開催され、諏訪市から4名参加しました。今年の会議は今までと大きく違うことは、行政が先頭に立つのではなく、多くの市民がボランティアで参画し、実行委員会のもとで、運営したことでした。被爆体験がある市として、いろいろな企画がなされました。

★全体会の基調報告「男女共同参画の今、そして未来」
〈内閣府男女共同参画局長 坂東久美子さん〉

統計資料をつかって、わかりやすく男女共同参画の現状とこれからを話されました。

ワークライフバランス※を中心に、これからの日本がどうあるべきか、男性の働き方、子育て支援など詳しく解説されました。

★全体会のシンポジウム

平和を創りだす若者たち～ヒロシマから世界へ発信～

1973年生まれ若い女性お三方がそれぞれ、世界に向けて平和活動に貢献している話は感動しました。お三方とも広島女学院高校の同級生で、高校時代の平和教育がその源になっているようで、教育の大切さを痛感しました。



命の始まりからともに育ち、支え合う子育て

～父親が子育てにかかわる・職場が変わる・地域が変わる～

講師は山田正人氏。今や育児休業手記「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」で一躍TV新聞などで話題の人。現在は独立行政法人経済産業研究所・総務副ディレクター。5歳の男女双子と3歳児の父。妻は同じ大学の同じ学部を卒業し同じ役所に同期入省。妻の仕事が山場を迎え、夫はその逆。第3子妊娠をきっかけに「子育てはお母さんにしか出来ないの？」素朴な疑問に対し、「社会実験をしてみよう」と父親の私が育休を取りました。

育休を決断した時、妻は安心し、子どもは驚いたが直ぐになつた。実の両親は拍手、妻の両親は大変いぶかっていた。職場の反応は育休の知識がない中、課長の「エー!!」の一言、女性の育休の1年は当たり前でも、男性の取得にはビックリされた。しかし、本の出版により妻の両親、周りの人々にも理解されたとか。

実際に男性が育休をはじめてみると男ならではのつらさ(例えば、周りからの好奇の目、疎外感、仕事離れたつらさ等)で半年ほどで「プチうつ」に陥る。しかし、月1回の職場の友達との飲み会、ママ友の励まし、無理しない育児をスローガンに脱却。あとは子どもの新しい発見、成長は自分自身の成長ともなり、妻への感謝の気持ち、夫婦間のコミュニケーション改善、地域との関りも広がった。

男性の育休の満足度は高く、育休は誰にでも出来ることを実感。育休の経験を仕事にも生かして、広い意味での人間形成、管理能力等も養えた。残業当たり前の今の社会を見直すこともできた。職場復帰後は週2回の定時退社を実施。ワークライフバランスへと話は展開。子育て期の男性の働き方、働かせ方の変革の重要性。究極には家庭内での男女平等が大切と力説。特に父親の育児「きちんとしつけが出来る」が親子関係により影響を与える。一度きりの人生だから仕事も子育ても大切、どちらも味わえなければもったいないと、爽やかな笑顔で結ばれた。

今回の分科会への出席者に若い男性が子ラホラういたこと、また男性参加者が増えたこと等、少しずつではあるが「男女共同参画社会」が実施されつつあることを実感、「ワーク・ライフ・バランス」が今後の課題となりそうだ。

※「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と家庭の調和)男女がともに、人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、自己啓発など、様々な活動について、自らの希望の沿った形で、バランスをとりながら展開できる状況のこと。

お父さん読んで!